

台湾の学生 日本を体験

尚綱大 4年ぶり短期留学再開

台湾・花蓮市の慈済大の学生ら約20人が、熊本市中央区の尚綱大で日本語や文化を学んでいる。短期語学留学の一環。両大学は交流協定を締結しており、新型コロナウイルスの影響で4



尚綱大で表千家教授の下城香さん（左）から茶の作法を学ぶ台湾の学生ら（熊本市中央区）

年ぶりに受け入れた。慈済大の学生は10日から3週間、日本語のほか和菓子作りや着付けなど日本文化を学び、休日は阿蘇や天草も巡る。12日は茶道表千家教授の

下城香さんに指導を受け、歩き方や茶菓子の食べ方といった作法を学んだ。2年生の郭家芸さん（20）は「抹茶は苦いイメージだったが、おいしく飲めた。これから日本文化に触れるのが楽しみ」と喜んだ。

尚綱大グローバル化推進センター長の竹下裕俊教授は「台湾企業の菊陽町進出もあり、大学でもさらに交流を深めようと動いている。人材の育成に生かしたい」と話した。

（深川杏樹）

熊本日日新聞

2023年7月17日